社團法人日本鐵鋼協會第十八回通常總會記事

總會開會の挨拶

社團法人　日本鐵鋼協會々長
工學博士　河村驍

本會第18回總會開會に當りまして、昨昭和7年度の鐵鋼界を概觀致しますと云ふと、世界的經濟界の不況に依りまして非常なる打擊を蒙り、歐米諸國に於きましては各製鐵國の產額は概して一昨年に比して何れも著しき減少を來たして居るに拘らず、獨り我國に於きましては一昨年に比べまして銑鐵に於ても、鋼材に於ても著しき增加を示して居ります、まだ統計がしつかり出來ませぬが、銑鐵に於ては約18%、鋼材に於ては約25%の增產を示したものと推定せられるのであります、是は滿洲事變に對する軍需品の需用增加、其他金輸出再禁止の結果、圓爲替の低落に依りまする我國の特殊の事情に依る所の需用增加、從つて價格の騰貴に歸因するものでありますが、一方我國の製鐵事業は多少引續く非常なる不況に惱まされまして、是が對策として官民各製鐵鋼工場に於きまして、極力之に對應して、設備の改善と經營の合理化を行ひまして、生產費の低減に向つて多年努力邁進しましたことが今日の結果を來たした次第であると存じます、今近年に於ける設備の改良並に增設に付て概觀いたしますと云ふと、鎔鑛爐に於きましては新設又は舊爐の改造に依りまして、從來に比較して著しき大型の鎔鑛爐が出現いたして居ります。曩には八幡製鐵所並に鞍山の製鐵所に於きまして、各々500瓩の熔鑛爐一基を新設して操業しつゝあることは御承知の通りでありますが、更に八幡に於きましては700瓩爐の工事中でありまして、遠からず竣工することゝ考へるのであります、それから釜石並に兼二浦に於きましては350瓩爐の操業を致して居るのであります、又仄聞する所に依りますと、淺野造船製鐵部、淺野小倉製鋼所、昭和鋼管等に於ても相當大型の鎔鑛爐の新設が計畫中である由に承はつて居ります、斯う云ふ具合に新設又は舊爐の改造に依りまして漸次に大型鎔鑛爐に變化しつゝあるのでありまして、從つて生產量の增加並に生產費の低減に對して著しき效果があるのみならず、目下の需用に對し既に銑鐵自給自足の域に達したるものと認められるのであります、又製鋼に於きましては、八幡製鐵所の第一製鋼工場の改築を初め、神戶製鋼、中山鐵鈑、淺野造船製鐵部等に於て、何れも平爐の新設又は增設の計畫があります、電氣爐方面に於きましては、吳海軍工廠製鋼部の30瓩爐を初め、其の他數箇所に於て各10瓩爐の計畫中に向つて居ります、尙最近の發達にかゝる高周波電氣爐も約10箇所に於て之を採用され非常に急速の進步を示して居るやうに向つて居るのであります、又ローリングミルに於きましては、八幡製鐵所の鉽力板工場の增設、中山薄鐵板、千住鐵板工場の新設、神戶のワイヤロッドミルの增設、昭和鋼管の新設等の計畫の外、多年の懸案になつて居りました滿洲の昭和製鋼所も愈々鞍山に工場建設着手の氣運に到達いたしまして、鋼材の需用に對しましても、將來少量の特殊品の外は全部自給自足し得るのみならず、或る種の過剩生產品は東洋、南洋の海外市場に輸出を增進し得るに至ることゝ考へるのであります、飜つて本年の第64帝國議會に於きましては、本邦10餘年來の懸案たる製鐵合同案も、愈々貴衆兩院を通過し可決確定したのでありますが、是は誠に本邦の鐵鋼界に取りましては劃期的の一大進展でありまして、今後は八幡製鐵所を中心とする官民合同組織を以て、鐵鋼事業の合理的統制を圖ることゝなり、將來之に依りまして、本邦製鐵鋼事業の基礎は一層鞏固となり、內に於ては力强き統制を行ひ、二重投資の弊や、生產品の無益なる亂賣の弊を除き、外國に對しては從來常に行はれて居ります所の計畫的ダンピングの壓迫を除き得るに至るであらうと考へます、本會に於きましても、多年の主張が將に達成せられむとしつゝあるを見まして誠に快心に堪えざる次第であります、勿論此合同と云ふことに付きましては、官と言はず、民と言はず、多大の犧牲を拂ふの必要あることは申すまでもなきことでありますが、此合同の處理の局に當る人に於て、最も公平なる立場より愼重審議の上、其成果の充分に收得せらるゝに至らむことは希望に堪えざる所であります、我國の鐵鋼界の狀況は斯の如く大略以上申上げました通りでありまするが、斯の如き鐵鋼界の狀況に際しまして、本會は國內一致共同の力に依りまして、外國に對抗する方針の下に、鋭意鐵鋼學

術技術の研究と、其結果の公表とを奬勵し、或は會誌の發行、講演會並に研究部會の開催等、苟くも本邦製鐵鋼業の進步發達に資すべきことは努めて之を行ひつゝあるのでありますが、外國に於きましては此財界不況の爲め、何れの學會も會員數は著しく減少の傾向があるに拘らず、本會に於ては少しも會員を減少せざるのみならず、却つて增加の傾向を見つゝあることは誠に喜ぶべき現象でありまして、會計並に資產の狀態も後刻說明いたします通り、概ね順調なる經過を辿りつゝあることは御一同と共に慶賀する次第であります、併し何分にも時局は重大であります、我々鐵鋼界に從事する者は一段の緊張を要する場合でありますから、會員一致協同の力に依りまして、一層本會の目的達成に邁進し、時運に順應して益々本邦鐵鋼業の發展に貢献せむことを期するものであります、以上を以て開會の御挨拶に代へます。(拍手)

總會次第

開會時日　昭和8年4月3日(月曜神武天皇祭)午前11時10分

會　　場　東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地帝國鐵道協會々館二階講堂

1、總　會

挨　拶　日本鐵鋼協會々長 工學博士　河村　驍君

議　題

イ、昭和7年度會務報告

ロ、昭和7年度收支決算報告

ハ、昭和8年收支豫算

ニ、評議員半數改選(投票開票)

2、服部賞牌並に服部賞金贈呈式

3、香村賞牌贈呈式

式　辭　日本鐵鋼協會々長 工學博士　河　村　驍君

受賞者　服部賞牌受領者　西山彌太郎君

香村賞牌受領者　三島德七君

服部賞金受領者(五十音順)　川本良行君

〃　小屋原總三郎君

〃　佐藤清吉君

〃　藤井鐵造君

〃　蒔田宗次君

總會參考書類

I. 昭和七年度會務報告書

(自昭和7年3月1日至昭和8年2月28日)

1、集　會

通常總會1回、理事會11回、評議員會4回、服部博士記念資金委員會1回、編輯委員會14回、講演大會2回、(東京及大阪)研究部會1回

2、會員異動

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者	3	1	—	39	129	172
退會者	—	—	—	36	44	80
死亡者	—	—	—	8	6	15
	+3	+1	−1	+74		+77

備考、維持會員1社2口は輪西製鐵會社の加盟。

イ、死亡者氏名

贊助會員　園　琢　磨君

正會員　末廣恭二君　宮崎虎一君　太田房夫君
高田直之助君　塚本小四郎君　種子田右八郎君
森　格君　田邊唯司君

准會員　千葉忠一郎君　高洲正夫君　古賀圓藏君
河添義雄君　宅野義博君　矢本孝磨君

以上の15氏を喪ひたるは痛惜の至りなり、猶ほ以上諸氏の訃に接しては直ちに弔詞を呈し哀悼の意を表せり。

ロ、改姓名者數……………………………11

ハ、准會員より正會員に轉じたる會員數……………………22

ニ、正會員より名譽會員に轉じたる會員數……………… 3

3、會員總數

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
昭和8年2月28日現在	12	27 (46)	18	754	624	1,435
前年同期比較	+3	+1	−1	+36	+38	+77

4、會誌及印刷物の刊行

イ、本會々誌「鐵と鋼」は第十八年第三號より第十九年第二號迄毎月發行せり。

ロ、「商工省鑛山局編纂製鐵業參考資料」を私費印刷の許可を受け印刷し希望者へ配布し又「鐵と鋼特輯號臨時增刊」として一般會員に配布せり。

ハ、「日本鐵鋼協會第八、九回講演大會講演大要錄」を作製し兩度の大會參列者へ配布せり。

5、庶務事項

イ、香村博士寄贈資金に關する件　前會長工學博士香村小錄氏より公債額面金貳萬圓也の寄贈あり、香村博士寄贈資金取扱規則を制定し卽時施行せり。

ロ、日本工學會に於ける工業用術語は引續き調查中なり、本會選出調查委員室井嘉治馬君退任され其の後任に鹽澤正一君を推薦す。

ハ、昭和七年四月開催の第二回工學大會には本會を代表し前會長工學博士今泉嘉一郎君「本邦製鐵事業の今日と將來」に就て講演せり。

ニ、編輯委員退任　室井嘉治馬君、田村宣武君の兩氏は大阪へ轉任の爲め退任されたり。

ホ、本會定款施行細則改正、同細則第一條中「贊助會員」の前に「名譽會員、維持會員」の八字を挿入す(鐵と鋼第十八年第五號本會記事參照)。

ヘ、服部博士記念資金取扱委員の任期滿了に付き改選せり(鐵と鋼第十八年第五號本會記事參照)。

ト、本會機關誌「鐵と鋼」大さ寸法變更、本誌は月々記事輻輳し從來の幅197mm, 丈260mmにては徒らに頁數を增すのみなるを以て商工省臨時產業合理局工業品規格統一調查會決定に則り「日本標準規格第92號、類別P.1紙の仕上寸法」中の「A列の4」を採用し幅210mm, 丈297mmに改め第十九年の第1號

より實施せり。

チ、本會々誌「鐵と鋼」第三種郵便物取扱認可、從來會誌は第四種約束郵便なりし處昭和七年七月十一日附を以て遞信省より第三種郵便物取扱認可の指令あり即時實施せり。

リ、香村博士寄贈資金取扱規則に基き賞牌製作、賞牌の名稱を「香村賞牌」と決定し圖案竝製作方は帝展無鑑査彫像家横江嘉純氏に依頼せり。

ヌ、日本鐵鋼標準試料頒布の件、八幡製鐵所に於て「日本鐵鋼標準試料」の製造頒布を企てられ其の一手頒布方を本會に委託せられたり。

ル、日本動力協會にて本會々長工學博士河村驍君を同會の參與員に推薦せり。

ヲ、日本工學會に於て理事長古市男爵の壽齡祝賀會開催及工業教育調査委員會設置に付きては本會より其委員に俵博士を推薦せり。

ワ、帝國海事協會技術委員本會代表委員は任期滿了に付き更に推薦方の依頼を受け次の三氏を推薦せり。

工學博士服部漸君、工學博士水谷叔彦君、工學博士渡邊三郎君

カ、名譽會員推薦、本會評議員會の決議を以て鐵鋼の學術竝に技術の進歩發達に對する功績顯著なる次の三氏を本會名譽會員に推薦せり。(いろは順)

東北帝國大學總長	本會評議員	理學博士	本田光太郎君
東京帝國大學名譽教授	本會前會長 理事	工學博士	俵　國一君
京都帝國大學名譽教授	本會評議員	工學博士	齋藤大吉君

ヨ、服部賞牌改造、香村賞牌と均衡する必要上香村賞牌製作者横江氏に改造を依頼し昭和七年度推薦受賞者より實施。

タ、會誌「鐵と鋼」掲載廣告料を改正せり。

6、調査事項

イ、商工省臨時産業合理局工業品規格統一調査會より照會の次の事項に就ては審議の上其都度回答せり。

照會事項

1、鐵鋼バナヂウム分析方法規格案
2、炭素鋼輕軌條規格案
3、鐵及鋼の記號規格案
4、鐵及鋼チタン分析方法規格案
5、鐵及鋼コバルト分析方法規格案
6、ニッケル鋼規格案

ロ、研究部會開催、本年度開催せる研究部會下の如し。

日本鐵鋼協會第七回研究部會

第三回銑鐵部會　粉鐵鑛燒結方法に就て(團鑛法を含む)

第四回製鋼部會　鋼塊及鑄型に關する問題

(以上は追て會誌上に發表するものとす)

ハ、商工省より日本工學會を經て本會に對し諮問に係る「工率及壓力に關する件」本會役員會に於て審議の上意見書作製し日本工學會を經て回答し置きたり。(會誌第十八年第十二號參照)。

7、表　彰

イ、第一回香村賞牌贈呈、香村博士寄贈資金取扱規則に基き昭和七年十月十六日大阪市に開催せる本會第九回講演大會に際し久保田式鑄鐵管製造法の發明者にして鐵管鑄造事業に關し功績顯著なる久保田權四郎君に對し第一回贈呈をなせり。

ロ、服部賞牌竝服部賞金受領者推薦(推薦理由書別項)

ハ、香村賞牌受領者推薦(推薦理由書別項)

備考　ロ、ハの贈呈式は第十八回通常總會(當日)に於て擧行す。

8、圖書寄贈を受けたる總數

本年度に於て圖書の寄贈を受けたる總數(雜誌、報告を含む) 1,333 部

9、講演會

本年度に於て開催せる講演會は東京に於て第八回講演大會、大阪に於て第九回講演大會の二回にして其講演題目及び講演者氏名次の如し。

(第八回講演大會)

1、高爐用骸炭製造の一考察
　製鐵所技師　工學士　伊能泰治君
2、八幡製鐵所洞岡第一鎔鑛爐內形の決定に就て
　製鐵所技師　工學士　山岡武君　外一名
3、一酸化炭素、炭酸瓦斯及窒素混合瓦斯に由る鐵鑛石還元實驗
　東北帝大金屬工學科　工學士　石部功君　外一名
4、八幡製鐵所に於ける鎔鑛爐瓦斯、骸炭爐瓦斯、發生爐瓦斯使用上に於ける被害豫防法に就て
　製鐵所醫務部衞生課　藥劑士　氏岡正行君
5、鹽基性平爐改造の經過と其の成績に就て
　川崎造船所製鈑工場　工學士　西山彌太郎君
6、高周波誘導電氣爐の研究(第1報) 15 K.V.A. 靜止型變流裝置使用高周波誘導電氣爐に就て
　芝浦製作所　中村素君
7、電解製鐵の研究(第2報)
　日本電解製鐵所技師　工學士　花岡元吉君
8、本邦に使用せらるる鑄物砂及其原料
　廣海軍工廠造機少佐　工學士　武智馨君
9、鋼鑄物製造に於ける經濟的考慮
　日本鑄鋼所技師　市川直雄君
10、過熱蒸汽中に於ける鑄鐵の成長
　三菱造船會社技師　工學士　佐々木新太郎君
11、彎曲作用を受ける鑄鐵梁の理論及實驗的考察
　横濱船渠會社技師　工學士　藤井忠二君
12、鍊鐵製錨鎖の缺陷と新强力錨鎖に就て
　吳海軍工廠造兵少佐　工學博士　佐々川淸君
13、航空機用薄肉鋼管材としてクロム、モリブデン鋼に就て
　住友伸銅鋼管會社技師　理學士　絹川武良司君
14、鋼の燒戾脆性に就て
　日本特殊鋼會社技師　永澤淸君
15、鐵線の靑熱脆性
　三菱航空機會社技師　理學士　須永信二君
16、異なる製鋼法に依る鋼の衝擊値と組織の關係
　安來製鋼所技師　工學士　石垣豐造君
17、數種の特殊鋼の衝擊試驗に於けるカー歪曲線及其實用的價値
　海軍技師　工學士　室井嘉治馬君
18、金屬の疲勞に就て
　陸軍科學研究所　工學士　茂木吉治君
19、コバルトを主金屬とする耐熱合金の研究
　東京高等工藝教授　橋本宇一君
20、特殊鋼の分離抗張力(Trennungfestigkeit)と疲勞による耐久力に就て

陸軍航空本部員砲兵大尉 工學士 高瀬孝次君

21、金屬並に合金の折れ口(Fracture)型式に就て
三菱造船研究所 工學博士 飯高一郎君

22、窒化鐵の研究
三菱造船研究所 理學士 佐藤俊一君

23、强滋石鋼の研究
東京帝大助教授 工學博士 三島德七君

24、燒入鋼の時效に就て
東京工大 工學士 横山均次君

25、高溫度に於ける金屬の酸化速度に就て
三菱造船研究所 理學博士 深川庫造君

26、特殊鋼の變態點と自硬性
東北帝大教授 理學博士 村上武次郎君 外二名

27、コバルト、ニッケル、クロム、三元平衡狀態圖並に二、三の物理的性質に就て
東北帝大金屬材料研究所 工學士 松永陽之助君

28、アルミニウム、銅、珪素、三元合金の狀態圖
呉海軍工廠造兵少佐 工學士 松山寛慈君

29、アルミニウムを主成分とせるアルミニウム鐵、珪素系に就て
京都帝大教授 工學博士 西村秀雄君

(第九回講演大會)

1、電爐鑄造高熱爐材コルハート煉瓦の國產に就て
旭硝子會社技師 工學士 釆野善治郎君

2、爐設計に關する計算圖表の應用 佐藤慶二郎君

3、砂鐵鑛の除燐方法に關する研究
商工省大阪工業試驗所 工學士 上野建二郎君 外一名

4、製鈑工場に使用する瓦斯發生爐作業に就て
川崎造船所製鈑工場技師 工學士 蜂谷知十雄君

5、30 噸電氣製鋼爐に就て
廣海軍工廠海軍技師 神谷基夫君

6、高周波誘導電氣爐の設備に就て
芝浦製作所 泉水信雄君

7、35. K. V. A. 靜止型變流裝置使用高周波誘導電氣爐の應用に就て 芝浦製作所 中村素君

8、熔融狀態に於ける酸性及び鹽基性平爐鋼滓の粘性に就て 大阪工大助教授 工學士 松川達夫君

9、電解製鐵の研究
日本電解製鐵所技師 工學士 花岡元吉君

10、熱處理用鑄造アルミニウム合金の研究
廣海軍工廠海軍技師 工學博士 大谷文太郎君

11、鹽類によりて小量の金屬を加へたるアルミニウム合金に就て 京大教授 工學博士 西村秀雄君

12、豫備精錬式混銑爐と平爐との合併製鋼作業に就て 八幡製鐵所 白倉貞慈君

13、鐵炭素系合金の表面張力測定に就て
熊本高工教授 工學士 本多顯曜君

14、鐵及鋼に含まれる酸素の定量
東北帝大助教授 工學士 的場幸雄君

15、銅を主成分とする銅-錫-亞鉛系の狀態圖に就て
大阪工大助教授 工學博士 山口珪次君 外一名

16、アルミニウム及其の合金の新表面酸化法に就て
廣海軍工廠海軍技師 工學士 田崎正浩君

17、デユラルミンの冷間加工と機械的性質並に時效硬化現象
三菱航空機會社技師 工學士 渡瀬常吉君

18、滲炭に依る電弧鎔接部の異常組織に就て
鐵道研究所技師 工學士 柴田晴彦君 外一名

19、鋼塊の凝固過程と不均質性の研究
日本製鋼所技師 工學士 堀江鐵男君

20、美裝鋼板の品質に關する研究
八幡製鐵所研究所 森寺一雄君

21、橋梁鋼材としてのユニオン構造鋼
汽車製造會社 太田三吉君 外一名

22、鋼の燒戻脆性に就て
日本特殊鋼會社技師 永澤清君

23、窒素硬化鋼材の研究
神戸製鋼所技師 工學士 伊丹榮一郎君 外一名

24、ニッケルクローム鋼代用としてモリブデン鋼、特にクロム、モリブデン鋼に就て
陸軍科學研究所砲兵大佐 工學士 尾藤加勢士君 外一名

25、內外國製高速度鋼の切削試驗に就て
陸軍大阪工廠 福田健太君

26、航空機用鋼管及鋼鈑材としての不銹鋼に就て
住友伸銅鋼管會社 理學士 絹川武良司君

27、水道管內面の銹瘤の成因に就て
大阪工大教授 工學博士 井口庄之助君 外一名

28、合金チルドロールの研究
八幡製鐵所研究所 工學士 谷口光平君

29、鑄鐵管材質の向上の實績に就て
久保田鐵工所取締役 田中勘七君

30、軟鋼の降伏點に關するの考察
理研 工學士 黑田正夫君

31、衝擊試驗に於ける最大力を知る簡單なる方法
理研 工學士 渡邊俊平君

32、强靱なる鋼鑄物に就て
日本ニッケル情報局技師 藤原唯義君 外一名

33、鑄鐵の熱傳導率に就て
戸畑鑄物會社技師 理學博士 菊田多利男君

34、磨耗より見たる鑄鐵の性質に就て
鐵道研究所技師 理學博士 鈴木益廣君 外一名

35、電熱線材としての鐵、ニッケル、クロム三元合金並に二、三の新合金の酸化並に電氣抵抗試驗に就て
日本電熱線會社技師 工學士 松永陽之助君

36、大型鋼塊を使用せる鍛材の內部性質
三菱長崎造船所技師 工學士 中村道方君

37、白銑の黑鉛化に及ぼす滿俺、硫黃及び燐の影響
京都帝大助教授 工學士 西原清廉君

38、炭素並に滿俺の壓延鋼材に及ぼす材質的影響
八幡製鐵所技師 工學士 城正俊君

39、コバルト、タングステン、炭素系合金に就て
東北帝大助教授 工學博士 武田修三君

40、鋼の疲勞限界に就て
大阪工大教授 工學博士 藤井寛君 外一名

昭和七年度收支決算表

（自昭和七年三月一日　至昭和八年二月末日）

收入之部 科目	金額	支出之部 科目	金額
維持會員會費	円 4,600·00	會誌印刷費	円 8,089·64
正會員會費	6,380·21	版類製作費	857·03
准會員會費	4,573·10	別刷印刷費	799·27
入會金	210·00	製鐵業參考資料印刷費	685·47
印刷物分讓料	1,147·45	原稿料	766·70
廣告料	2,390·44	約束郵便料	458·48
公社債利子	3,309·48	報酬及手當	3,580·00
振替貯金利子	156·09	借室料	1,268·00
銀行預金利子	73·10	會合費	343·15
信託預金利子	324·16	工學會費	200·00
定期預金利子	13·76	事務費	1,955·05
寄附金	100·00	圖書費	7·12
鐵鋼標準試料分讓料	434·81	大會費	2,138·13
雜收入	34·30	鐵鋼標準試料代金	204·80
		豫備費	47·26
		收支差引殘高（財產に繰入）	2,346·80
合計	23,746·90	合計	23,746·90

昭和八年度收支豫算表

（自昭和八年三月一日　至昭和九年二月末日）

收入之部 科目	金額	支出之部 科目	金額
維持會員會費	円 4,600·00	會誌印刷費	円 8,200·00
正會員會費	6,400·00	版類製作費	950·00
准會員會費	5,000·00	別刷印刷費	700·00
入會金	150·00	製鐵業參考試料印刷費	600·00
印刷物分讓料	1,000·00	原稿料	800·00
廣告料	2,300·00	約束郵便料	500·00
公社債利子	3,300·00	報酬及手當	3,500·00
振替貯金利子	50·00	借室料	1,200·00
銀行預金利子	180·00	會合費	350·00
信託預金利子	320·00	工學會費	200·00
鐵鋼標準試料分讓料	500·00	事務費	2,100·00
雜收入	50·00	圖書費	20·00
		什器費	50·00
		大會費	2,000·00
		鐵鋼標準試料代金	400·00
		豫備費	2,280·00
合計	23,850·00	合計	23,850·00

財產目錄

（昭和八年二月末日現在）增減欄の＋は增、－は減を示す。

摘要	額面	買入價格	昭和七年二月末日現在	昭和八年二月末日現在	差引增減
1 圖書			276·00	276·00	
2 什器			969·50	969·50	
3 有價證券			48,658·34	48,658·34	
內譯	額面	買入價格			
東京電燈會社々債 第七回丙	¥ 13,000·00 円	12,870·00 円			
同 物上擔保附社債 路	¥ 1,000·00	910·00			
東京モスリン紡織會社々債 第三回波丙	¥ 5,900·00	5,767·00			
山陽中央水電會社々債 第六回ね	¥ 6,000·00	5,880·00			
京濱電鐵會社々債 第四回波	¥ 3,000·00	2,983·50			
東京市電氣事業公債 第四回甲	¥ 5,000·00	4,300·00			
白山水力電氣會社々債	¥ 10,000·00	9,900·00			
東京府農工債券 第百回	¥ 5,000·00	5,000·00			
帝國五分利公債 甲路	¥ 1,000·00	907·00①			
帝國五分利公債 み號	¥ 150·00	137·84②			
4 約束郵便擔保金			155·00	0	－ 155·00
5 借室料敷金			351·00	300·00	－ 51·00
6 振替貯金（基本金を含む）			5,275·17	96·30	－ 5,178·87
7 銀行預金			1,440·45	6,814·66	＋ 5,374·21
8 定期預金			0	2,000·00	＋ 2,000·00
9 信託預金			6,086·30	6,410·46	＋ 324·16
10 現金			45·85	79·15	＋ 33·30
計			63,257·61	65,604·41	＋ 2,346·80
服部博士記念資金現在高	額面	買入價格			
帝國五分利公債	¥ 20,000·00	¥ 18,290·00	18,290·00	18,290·00	
三菱銀行特當預金			1,268·06	1,275·61	＋ 7·55
現金			15	3·97	＋ 3·82
計			19,558·21	19,569·58	＋ 11·37

摘　　　要		昭和七年二月末日現在	昭和八年二月末日現在	差引增減
香村博士寄贈資金現在高				
	額　面			
帝國五分利公債	¥ 20,000·00		20,000·00	
三菱銀行特當預金			278·06	
現　金			2·78	
計			20,280·84	+20,280·84
總　計		82,815·82	105,454·83	+22,639·01

備考、摘要欄の①は會誌發行擔保金②は約束郵便擔保金なり。

別口決算

(自昭和七年三月一日　至昭和八年二月末日)

服部博士記念資金收支決算表

收入之部 科目	金額	支出之部 科目	金額
前年度より繰越(銀行預金)	円 1,098·06	賞牌製作費(前年度内渡殘)	円 90·00
同　(現金)	10·15	賞金	700·00
公債利子	1,000·00	賞狀揮毫料	14·40
銀行利子	26·95	受賞者招待費	24·00
		信託手數料	10·00
		郵便費	3·61
		筆耕料	9·30
		雜費	4·27
		收支差引殘(銀行預金及現金)	1,279·58
合計	2,135·16	合計	2,135·16

香村博士寄贈資金收支決算表

(昭和八年二月末日現在)

收入之部 科目	金額	支出之部 科目	金額
公債利子	円 750·00	賞牌原型製作費	円 150·00
銀行利子	3·26	賞牌製作費	249·18
		賞牌入箱代	8·90
		寫眞代	7·20
		受賞者及參列者招待費	18·00
		賞狀揮毫料	3·00
		表彰狀及理由書印刷費	5·30
		香村博士の額製作ノ謝禮	30·00
		雜費	·84
		收支差引殘(銀行預金及現金)	280·84
合計	753·26	合計	753·26

II. 服部賞牌並賞金受領者推薦理由書

服部賞牌受領者

株式會社川崎造船所製鈑工場

製鋼課長　工學士　西山彌太郎君

推薦理由書

同氏は大正八年七月株式會社川崎造船所製鈑工場製鋼課に入りて專ら製鋼作業に從事し、昭和三年七月以降同課々長の職務を總攬して今日に至れり、製鈑工場にて各種品質の鋼塊より之れを壓延厚鈑となして、世上一般の需要に應ずることは、同氏の入社以前より其成績見るべきものありたるも、大正十三年七月薄鈑の鋼塊を製造する頃より同氏は其質の好適したるものを研究鑄製して壓延作業部に配給し採算上遺憾なからしめたり。

次で大正十四年九月より昭和三年二月迄ルツマン式平爐の設計圖面に依りて舊式六基を全部新式に改め更に三基を增築したり、夫れより以後各種の鋼質に對する製鋼法を試み自ら先登に立ちて部下一同を激勵して事に當り、其の間鹽基性平爐の重要部に一大改良を加へ、昭和六年二月には瓦斯吹口に特別の設備を爲して酸素瓦斯を吹込ませて石炭瓦斯の燃燒を早め、爐内の溫度を高め、製鋼時間を短縮して、平均四時間二十分に至らしめ又鋼滓室の拔口を改良して操業に便にし且極々軟鋼塊を鑄出し製鋼中の特優品とも稱すべき高級品を世間に供給することを得せしめたり、昭和六年四月に至り定置式鹽基性平爐を用ひて多量の珪素分を含有する電氣鋼鈑材の製作に成功し、同七年五月鹽基性平爐と鹽基性電氣爐との合併作業の下に變壓器用電氣鋼鈑の製作を試み此種鋼鈑の具備すべき諸要素に適合するものを作製し、其生產原價も至廉なるものを得たり、今や同氏の學識と技能は普く世間の認むる處にして、本會第八回講演大會に於ける同氏の講演は製鋼業上好箇の參考資料を提供するものと云ふ可し。

要之同氏の製鋼界に貢獻したる功績は極めて顯著にして同氏は服部賞牌受領者たるの資格充分なりと認む。

服部賞金受領者

製鐵所技師　川本良行君

推薦理由

川本良行君は大正五年三月明治專門學校機械科を卒業し直に製鐵所に職を奉じ昭和二年九月第三、四分塊工場主任就任後當時本邦唯一の連續ロール機による壓延に從事し昭和六年八月選ばれて第六分塊工場主任となる、第六分塊工場は二重逆轉式分塊ロール機一基と二十四吋六基、十八吋六基よりなる二聯の連續ロール機を有し其の規模に於て本邦第一のものにして其の操業は因より容易ならず、從て生產成績の充分ならざるを知り熱心忠實に對策を探究し、爾來幾多操業法の改善に努力し其就任以前の生產額に比して今日已に約五割の增產を實現して尚ほ綽々の餘裕を示すに至れり。連續ロール機による壓延作業たるや其の製品寸度の精確と數量とは擧げて原料熱の度とロール機各部の調整に待つの外なく而も敏活に之を行つて誤らざるを要するものにして我國過去の狀態に於ては其の指導を他に求むることを得ず、而も今日の成績を擧ぐるに至れるは久しきに亘る同君の考究努力の結果なるは明白にして實に最近民間に供給さるる鋼片類年額約二十五萬噸の殆んど全部は同君指揮の下に製作され、而も其の大部分は技術上至難とさるる薄鋼板の原料たるシート

バーなり。上述の如く連續ロール機による壓延作業の進歩發達上に遺されたる同君の功績多大なるを以て服部賞金受賞者として表彰に値するものと認む。

服部賞金受領者

製鐵所製鋼部第三製鋼工場宿老

小屋原 總三郎君

推薦理由

同氏は明治三十二年八月製鐵所築爐科煉瓦職を拜命し爾後三十三年終始恪勤精勵し倦む所を知らず、其の間明治三十三年五月より第一製鋼工場の建設に從事し二十五瓩平爐十二基及轉爐二基等の建築を終へ第一、第二分塊大中小形薄板工場及鑄造工場等の均熱爐及平爐の築造、大正三年四月より第二製鋼工場の建設に際し五十瓩平爐四基、六十瓩平爐六基、二百瓩豫備精錬爐二基其他均熱爐及瓦斯發生爐、ドロマイト、石灰窯等の築造をなし大正七年四月兼二浦製鐵所に出張を命ぜられ、同所六十瓩平爐二基及大形分塊工場等の均熱爐の築造をなし大正七年十一月雇拜命同八年六月より第三製鋼工場擴張工事に當り工事主任を命ぜられ六十瓩平爐七基、二百瓩タルボット式製鋼爐二基、二百瓩豫備精錬爐二基、四百瓩混銑爐二基其他附屬設備を完成し同十五年六月一日宿老を拜命昭和三年六月第四製鋼工場の作業開始に當り六十瓩平爐一基の築造工事を指導す、以上の如く當所に在りては製鋼工場築造は殆んど全部及壓延工場等の均熱爐の築造に功勞ありたるのみならず、各製鋼工場にありては其の作業中に於ても亦修繕作業を指導し、平爐及加熱爐改造に關する功績尠からず、現に第三製鋼工場にありて各爐築造上の改良によりて能率を增進せしめつゝあり。氏は其の職に望むや身を以て指導督勵し克く其任務を遂行す、今日當所製鋼作業に從事する職工中煉瓦職の殆んど全部は氏の薰陶に依る所多く本邦製鋼爐築造上の今日の發達に對し貢獻すること多大なりと謂ふべし。以上の業績を以て表彰の資格あるものと認む。

服部賞金受領者

工學博士 佐藤清吉君

推薦理由

佐藤君は大正六年京都帝國大學工科大學機械工學科を卒業し、日本製鋼所に就職せられしが大正十二年以來東北帝國大學金屬材料研究所に於て研究に從事せらる。其間種々の巧妙なる研究裝置を創案し、之に由て多くの有益なる研究結果を發表せられしが最近數年に亘る鋼の燒入に關する研究は最有要なるものなり。

鋼の燒入に關する研究は古來多くの學者に由て行はれたるが其研究裝置の不充分なるがため精確なる結論を得る能はざりき。佐藤君は巧妙なる燒入研究用自記膨脹計を考案し、之に由て燒入の間に起る膨脹の變化を自記せしめ種々の有益なる結果を得たり。先づ油燒入の場合には水燒入の場合よりも Ar 變態が一層低溫度に於て起ることを明にし、又水及種々の油を用ひて其液の溫度の影響を研究し、各場合に於て燒入液の上昇に伴ふ冷却狀況の變化及燒入效果の差異を決定し、油の溫度 200°C 度以上なるときは大州田は頗る安定なること等を確かめたり。又燒入溫度の影響を研究し吐粒洲の量は燒入溫度の上昇と共に減ずることを示し、又炭素鋼に於ける結節狀吐粒洲主成の機構を說明せり。

又試料表面に施す塗布物の效果に就て詳細なる研究をなし塗布物の存在は冷却速度を增し燒入效果を大らしむることを認め種々の條件の下に燒入し各場合に於ける冷却曲線を前記の自記膨脹計に由つて自記せしめ、塗布物及燒入液の種類及其溫度が冷却速度に及ぼす影響を明瞭に示せり。更に又活動寫眞裝置を用ひて燒入の際試料の表面より蒸氣の發生する狀況を撮影し之を映寫して其實況を示し塗布物が試料の冷却を促進するは表面より燒入液の蒸氣の泡出を容易ならしむることを證明せり。

此の如く佐藤君は其創案に成る精巧なる研究裝置及活動寫眞裝置を利用し燒入に關する未和の諸現象を明にし其研究は學術並に工業の發達上に稗益する所少なからず。

仍て同君は服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

參考

1. On Some Diagrams Registered with A self-Reconding Dilatometer during Quenching and the Mechanism of Nodular troostite Formation in carbon Steel
2. On the Effest of "Facing" on the Cooling Velacity or A Specimen during Quenching
3. On the Thermal Measurement of the latent Energy in cold-worked Metals and Alloys
4. On the Thermal Analysis of Quenched Carbon Steels

服部賞金受領者

日本鋼管株式會社技師 藤井鐵造君

推薦理由

同氏は明治四十四年二月工手學校機械科を卒業、大正六年八月日本鋼管株式會社に入社し今泉博士指導の下に鋼管の製造に盡瘁し今日に及べり。其間大正十二年二月歐米各國に於ける鐵鋼業を視察し同年十一月歸朝引續き鋼管の製造する傍鋼管の新用途に着目し地下埋設用としての鋼管普及の癌たりし分岐管取付の困難なるを解決すべく苦心研究の結果昭和五年鋼管分岐取付口形成法（特許第八九〇二三號）並に分岐管取付口形成器（特許第八九六五四號）を同七年水道用鋼管接續裝置（實用新案登錄第一七〇二六七號）を發明又は考案し本邦に於ける地下埋設用鋼管普及の端緒を造り且つ鋼管の普及に盡瘁し、爾來之を採用せらるる向漸次多きを加へ現に大東京市を始めとし川崎市、函館市、鶴岡市、岐阜市、八幡市、遞信省其他各官省、各市町村、諸會社等數十に達するに至れり、方に水道瓦斯等の地下埋設用管に一新紀元を劃したるものにして鋼管製造事業特に水道用、瓦斯用、地下埋設管の發達普及に貢献するところ多大にして受賞の資格充分なりと認む。

服部賞金受領者

工學博士 理學士 蒔田宗次君

推薦理由

同氏は大正三年七月東北帝國大學理學部化學科を卒業し直ちに株式會社日本製鋼所に就職、昭和七年三月迄約十有八箇年間主として同社の研究室に在職し專ら鋼の性狀に關し研究をなせしが大正十三年會々鋼の熱錬處理の方法により一種特異の軟化性を附與し得ることを發見し爾來專念之れが研究に沒頭し遂に特種熱錬法により鋼の內部組織を一種の球狀化し得る事を確めたり、而して此方法を施したる鋼を從來既知の球化法により得らるものと比較するに其の軟化度一層高く同時に彈性限及衝擊値に於て全く相違し普通燒鈍法によりたるものよりも優秀なる性質を有す、故に其構造組織に於て兩者何れもセメンタイトの球狀化なりと雖其性質全く相反するものあり、且つ其熱錬實施時間に於て既知球化法は長時間を要し工業的用

途殆んど皆無なるに比し其時間短かく殆んど普通熱錬作業時間を以て之れを完成するを得るにより既知の何れの軟化法も企及し能はざる新規の効果を有し且つ工業化の可能性を有する獨立の發明なり、玆に於て日本製鋼所は其名に因み之れにニセコ軟化法なる名を附與し特種なる鋼の軟化法として之れを我邦及英、米、佛、獨の各國に出願し何れも其特許を獲得せり、爾來同社に於ては軍器、船舶、車輛等の各種鍛鑄鋼材に之れを實施し全く獨特優秀なる成績を擧げつゝあり。上述の如く同法發明の此軟化法は既知の鋼の軟化法の何れよりも優秀且つ容易に工業化し得るものにして鋼熱錬處理の發達上に大なる貢献をなしたるものと云ふ可し。

仍て表彰に値するものと認む。

III. 香村賞牌受領者推薦理由書

第二回香村賞牌受領者

工學博士　三島德七君

推薦理由書

三島德七君は大正九年東京帝國大學工學部鐵冶金科卒業後同大學に教鞭を取り學生指導の傍ら金屬組織學、鐵冶金學並に製造冶金學に關する研究に努め十數論文を發表して斯界に貢献せり、就中昭和四年一月以降磁石鋼の研究に努力し同五年末 MK 强磁石鋼を發明し國内特許を得たるもの九件目下英、米、獨、佛以下八ケ國に特許を出願中なり、本發明は鋼にニッケル 5 乃至 35 %、アリミニウム 2 乃至 15 %を含有せしめたる新合金にして元來ニッケル約 5 乃至 30% を含有せしめたる鋼は所謂非可逆性を示すを特徴とし就中ニッケル含有量多きものは不感磁氣鋼として有名なるものにしてアルミニウムも亦不感磁氣性のものなるに此等二つの不感磁性のものを配合して從來使用せられたる磁石鋼に數倍する高磁性を有する强磁石鋼を得たるは實に驚異に値するものとして内外學界に一大感動を與へ磁氣に關する從來の學說を以て說明し難き新發明なりとせらる、今本磁石鋼の特徵を擧ぐれば次の如し。

(1) 從來の磁石鋼の如く燒入を要せず、從て燒割れ變形等の惧なし。

(2) 殘留磁氣の値は從來の優良磁石鋼と殆んど同程度なるも頑磁力の値著しく大にしてタングステン鋼の約九倍、高コバルト鋼の三倍餘に達するを以て永續性極めて大なり。

(3) 攝氏 700 度附近より零下 100 度に至る溫度變化或は機械的振動衝擊等による磁力の變化殆んど無し。

(4) 在來の磁石鋼に比し其比重 10 乃至 20 %位小なること。

(5) 從來の優良磁石鋼たるコバルト鋼に比し其價格極めて低廉なること。

以上の如くなるを以て同一强度の磁石を得るに小なる材料を以て足り大に重量の輕減をなし得可く又同一重量のものに於ては容積を大にして其磁力を一層大ならしむるのみならず常に其壽命を長からしむる事を得可く其用途頗る廣汎なるものあり。

要之本發明は學界並に工業界に貢献する處多大にして三島氏は香村賞牌受賞者たるの資格充分なりと認む。

（以上の外前以て總會開催次第、評議員改選投票用紙、正會員名簿等を郵送し置きたり）

議事速記録

出席者 名譽、贊助、維持、正會員合計 190 名外準會員 100 餘名。

先づ會長河村驍君議長席に移る。

○議長 河村驍君 次は順序に依りまして議事に移りますのでありますが、時間の都合上、其前に特別の御方に御願ひ致しまして投票の開票をして頂きたいと考へます――皆樣もう漏れなく投票が御濟みになりましたでせうか、投票漏れの方はございませぬか――それでは時間を節約します爲に、前例に依りまして石川博士と鹽澤正一君に御立會を煩はしまして、どうか別室に於て開票を御願ひ致したいと思ひます、それでは後刻開票の結果を御報告申上げます。

イ、昭和七年度會務報告

○議長 河村驍君 次に昭和七年度の會務報告でございますが、是は御手許に差上げて置きました昭和七年度會務報告、昭和七年度會計報告の中に詳しく載せて居りますので、是亦時間を節約します爲に朗讀を省略いたしたいと考へます、どうか充分御覽下さいまして、御質問の御ありの方はどうぞ御質問を願ひます、唯特に此中で此席に於て申上げて置きますことは、本年の二月十五日の評議員會に於きまして、本邦鐵鋼の學術並に技術の進步發達に顯著なる貢献をなされました理學博士本多光太郎君、工學博士俵國一君、工學博士齋藤大吉君の三君を本會の定款に依りまして、評議員會の推薦に基きまして本會の名譽會員に推薦いたしました、此段御報告申上げ何卒拍手を以て皆樣の御賛同を願ひたいと存じます（拍手）――別に此會務報告に付きまして御質問等はございませぬか。

ロ、昭和七年度收支決算報告

○議長 河村驍君 別に會務報告に付て御質問並に御意見がございませぬければ、次に昭和七年度の收支決算報告に移ります、御手許に差上げました後に附けました一番最初の表が昭和七年度の收支決算表でございます、收入の合計は 23,746 圓 90 錢でございまして、左の方に收入の科目が書いてあります、支出の方はそれより 2,346 圓 80 錢少なく支出して居ります、つまり此 2,346 圓 80 錢と云ふものが本年の剩餘金となつて居ります、是は別に御異議ございませぬか――御異議ないと認めます、財產目錄は次の表に載せてありまして、昭和七年の二月末日の現在が 63,257 圓 61 錢で、今度の殘金を入れまして昭和八年の二月末日の現在が 65,604 圓 41 錢に增加いたしました、此外に服部博士記念資金の現在高が 19,569 圓 58 錢、香村博士寄贈資金現在高が 20,280 圓 84 錢、合計財產の總計が 105,454 圓 83 錢となつて居ります。

ハ、昭和八年度收支豫算

○議長 河村驍君 次に御決議を御願ひいますことは、昭和八年度の收支豫算でございます、是は今までの實績に依りまして出來るだけ正確なる數字を出したのでございます、收入の方が合計 23,850 圓、それから支出の方では豫備費を 2,280 圓取つてありますが、此豫備費を使はないことに致しますれば、來年も此 2,280 圓は剩餘金となる勘定になつて居ります、それで從來と大いした豫算額の變動はありませぬ、之に付て御異議はありませぬか――御異議がありませぬければ次に移ります、次の表の別口決算と申しますのは、服部博士記念資金收支決算と香村博士寄贈資金收支決算で之は總會で報告することになつて居ります、基本金の外に利子から生じましたものに付きましての決算でございます、服部博士記念資金の方では收入が 2,135 圓 16 錢、前年度の繰越が 1,098 圓 6 錢、それから本年度の收支差引殘が 1,279 圓 58 錢になつて居ります、それから香村博士の寄贈資金の收入が 753 圓 26 錢、收支差引殘が 280 圓 84 錢になつて居ります、兩方とも二月末現在高であります、別に御異議はございませぬか――御異議ないものと認めます。

二、任期滿了評議員改選（投票、開票）

○議長 河村驍君 只今開票の結果が判りましたから、結果を報告して頂きます。

○鹽澤正一君 開票の結果を御報告申上げます、時間を省く爲に當選者の方だけの御名前を申上げます。

磯村豐太郎君	一色虎兒君	今岡純一郎君
石川登喜治君	井上禧之助君	井上匡四郎君
西野惠之助君	本多光太郎君	戸村理順君
大石源治君	大河内正敏君	大森治一郎君
渡邊義介君	桂弁三君	金原信泰君
金子恭輔君	景山齊君	吉田豐彦君
堤正義君	向井哲吉君	室井嘉治馬君
鵜瀞新五君	野田鶴雄君	松田貞治郎君
鮎川義介君	三輪時雄君	白石元治郎君
島安次郎君	島岡亮太郎君	末兼要君
林狷之介君		

以上の方々でございます。

○議長 河村驍君 只今開票の結果を申上げましたのでありますが、此當選者の中で誠に不幸なる出來事が今朝の新聞に依りますると出來たのでございます、それは仙臺の東北大學の金屬工學科教授の大石源治君でございますが、不幸にして逝去されたのであります、誠に是は遺憾の次第でございます、今朝早速弔電を打つて置きました、それで此補缺でございますが、是は此席で又改選すると云ふことも時間を要することでございますので、追つて本會の定款にもありますことでございますから、評議員會に於きまして相談を致しまして補缺を決めたいと考へます、どうか左樣御諒承を願ひます——それでは以上を以て總會を終りまして、次に服部賞牌並に服部賞金及び香村賞牌の贈呈式に移ります。

（總會終了）

服部賞牌並同賞金及香村賞牌贈呈式

式辭 會長 河村驍君

本年度の受賞者の推薦理由書は御手許に差上げてございますので、其印刷物に依つて御覽を願ひたいと存じます、今其概要だけを申述べますと云ふと、服部賞牌受領者西山彌太郎君は、平爐の構造並に作業上の進歩發達に對する貢獻顯著に依るものであります、又服部賞金の受領者川本良行君は、分塊ロール並に連續ロール機に依る壓延作業の改良發達に對し多大の貢獻あるに依るものであります、又同賞金受領者の小屋原總三郎君は、各種の製鋼爐並に加熱爐の築造上の改良發達に多年の貢獻あるに依るものであります、又同賞金受領者佐藤清吉博士は、燒入裝置の創案並に此裝置と活動寫眞裝置に依る燒入に關する研究が未知の諸現象を明にし、學術並に工業の發達に多大の貢獻をされたに依るものであります、又同賞金受領者の藤井鐵造君は、鋼管の製造の中特に地下埋設管の發達普及に對し多大の貢獻をされた方であります、又同賞金受領者の蒔田宗次博士は、鋼熱錬處理の發達に對し多大の貢獻があるに依るものであります、此六人の方は服部博士紀念資金委員會に於きまして、愼重審査の上各々受賞者たるの資格充分であると認めたものでございます、次に香村賞牌の受領者三島德七博士は、不感磁性なるニッケル鋼に不感磁性なるアルミニューム を加へて、強磁石 M. K. 鋼を發明されまして、學術界並に工業界に顯著なる貢獻をなされたものであります、是は本會の評議員會に於て、愼重審議の結果香村賞牌を贈呈すべき資格充分なりと認めたのであります、以上の諸氏は何れも今回名譽ある贈呈を受領さるゝに最も相應しき鐵鋼關係の功勞者でありまして、又是等受領者其人を得たことは、從來と同等或は以上に此服部賞並に香村賞の價値をして益々重からしむる所以でありまして、本邦鐵鋼界に取りまして誠に慶賀の次第であります、全體本日は監督官廳の御方とか或は其他の工業團體の主腦者に御依頼して祝辭を述べて戴きたいと考へましたが、時間の都合に依りまして、遺憾ながら之を省略いたしました次第であります、之を以て式辭に代へまして、是より直ちに贈呈式を行ひます。

服部賞牌並服部賞金、香村賞牌贈呈

贈呈式委員石原善雄君次の各氏を順次に讀上げ會長より厳かに贈呈す。其都度滿場雷聲の如き拍手を以て祝意を表せり。

受賞者

服部賞牌　西山彌太郎君

服部賞金　川本良行君　小屋原總三郎君　佐藤清吉君　藤井鐵造君　蒔田宗次君

香村賞牌贈呈式

受賞者　三島德七君

○會長 河村驍君 之にて第 18 回通常總會全部を終りました（拍手）。

（午後零時散會）

日本鐵鋼協會第十回講演大會狀況報告

本會春季（第十回）講演大會は例に從ひ總會を機とし本部處在地に於て開會する事に內定しあれば時季恰も絶好を選び開きたるも本年は花は特に遲れ聊か心不足の感なきにしもあらざれども今回の大會の狀況は講演數は一日間に 26 題、出席者數に於ても昨年の工學會大會部會を凌駕し本會春季大會中第一位の盛況を呈したるは本會々員各位の如何に熱心且つ眞摯にして本會の發展に盡瘁しあられるかを想定し得本會否本邦の爲め幸慶至極とする處なり。

準備及委員 例に依り本部所在地に於て大會擧行の際は特に實行委員を囑託せず會長自ら委員長の任に當り理事、前會長は幹部となり編輯委員は各々役割を分擔し實行委員の任に當られたり、其擔當役氏名は既報したれども次記の如し。

第 10 回講演大會委員分擔

氏名	擔當					
池田正二君	講演係（第二部）	見學（第二班）	研究部會委員	—	—	—
石原善雄君	〃（第二部）	〃（第一班）	研究部會準備係	—	表彰式係	—
田中清治君	〃（第一部）	—	〃	—	—	—
山田良之助君	〃（第二部）	見學（第一班）	委員	—	—	—
足立泰雄君	〃（〃）	—	委員	接待	—	—
三島德七君	〃（〃）	—	委員	接待	—	—
鹽澤正一君	〃（第一部）	見學（第一班）	委員	接待	—	選擧係
廣瀨政次君	〃（〃）	〃（第二班）	研究部會準備係	—	—	—